

アメリカにおける最新の高齢者虐待調査発表 The National Elder Mistreatment Study

「アメリカ公衆衛生誌」の2010年2月号に最新の調査結果「全国高齢者虐待調査（The National Elder Mistreatment Study）」の結果が発表された。

アメリカの高齢者虐待についての調査は、1997年に発表された多々良紀夫博士による「全国高齢者虐待事例調査（The National Abuse Incidence Study）」を嚆矢として、いくつかの調査が行われてきた。

このたび発表された最新の調査結果は、国立司法研究所、国立エイジング研究所のサポートによりサウス・カロライナ医科大学のRon Acierno博士らが行った調査によるものである。調査時期は2008年、調査対象者は全米の5,777名で、平均年齢は71.5歳、女性60.2%、男性39.8%である。認知機能に問題があるとされた対象者は除外している。

右表のように、過去1年のうちに心理的虐待を受けた割合は4.6%で、このうちの約7.9%が警察に通報されている。身体的虐待は1.6%で、うち約31%は警察に通報されている。性的虐待は0.6%（うち約16%は警察に通報）、放棄・放任は5.1%、家族による経済的虐待は5.2%であった。そして過去1年のうちになんらかの虐待を受けたことがある割合は11.4%であった。

分析のためのリスク・ファクターとして想定したのは、低収入世帯であること、失業あるいは退職していること、健康に問題があること、過去にトラウマとなるような出来事に出合っていること、ソーシャル・サポート（他者との情緒的・機能的なつながり）が少ないこと、ソーシャルサービスを受けていること、日々の生活に助けが必要であることの諸要素である。

二変量分析の結果によると、社会的サポートが少ない場合は他のファクターの場合よりも3倍以上もの確率で虐待の発生と密接な関係がある。社会的サポートが少ないことは虐待の原因というよりもむしろ結果であろうが、虐待予防のためにも重要なファクターである。このため、社会的なサポートを向上させるために、コミュニティにおける様々な資源との結びつきをつくり、家族やコミュニティ対象のプログラムを支援すること、さらに交通手段を使いやすくすることなどが重要であると指摘している。

また、もう一つの虐待の発生と関係が強い要素は、過去のトラウマとなるような経験であり、心理的、性的、経済的虐待に多くみられる。この経験には、他人からや家庭内の暴力も含まれ、心的外傷後ストレス障害（PTSD）やうつ、全般性不安障害（GAD）のリスクが高まる。分析では、この場合には繰り返して虐待を行っている人が近くにいる可能性があると指摘している。

種類、時期別虐待の発生

	過去に発生		昨年発生	
	%	(N)	%	(N)
心理的虐待				
全般	21.7	(1,250)	4.6	(254)
言葉による虐待	9.2	(528)	3.2	(181)
屈辱感	12.2	(700)	4.9	(279)
嫌がらせ／強制	5.4	(311)	2.2	(126)
無視	9.7	(557)	4.0	(224)
身体的虐待				
全般	12.0	(799)	1.6	(86)
殴打	9.9	(572)	1.2	(70)
拘束	2.8	(160)	0.4	(22)
負傷	6.3	(363)	0.7	(37)
性的虐待				
全般	7.0	(397)	0.6	(34)
性的行為の強制	7.0	(397)	0.4	(21)
性的いたずら	4.0	(226)	0.2	(10)
裸にする	1.8	(105)	0.1	(3)
ヌード写真を撮る	0.6	(33)	0.1	(3)
介護・世話の放棄・放任				
全般	—		5.1	(297)
移動手段	—		0.8	(47)
食料、薬の入手	—		0.8	(48)
料理／食事／服薬	—		0.7	(38)
掃除／庭仕事	—		3.4	(197)
家族の経済的虐待				
全般	—		5.2	(263)
家族による使い込み	—		3.4	(196)
家族が書類の控えを渡さない	—		0.7	(40)
家族によるサインの偽造	—		0.5	(30)
家族による盗み	—		0.7	(42)